

■ COG2026 キックオフ | 自治体向け 話題提供

COGに踏み出す前の、4つのためらい

— その正体と、乗り越え方 —

多田 功（COG エバンジェリスト）

2026年6月14日（日）

多くの担当者が、最初に同じところでつまづく

「うちに、市民と一緒に考える課題なんて、あるだろうか？」

COGは2016年に始まり、今年で11年目。

それでも自治体の最初の一步は、いつも「ためらい」から始まります。

手を挙げられない理由は、たいてい決まっています。

— この「ためらい」を、4つに分けて、順番にほどいていきます。

自治体がためらう、4つのハードル

01 課題が出せない

「出せる課題なんてない」
「立派な課題でないと」

02 庁内が動かない

複数部署・上司の理解・
前例がない、という壁

03 データを出せるか

「オープンデータを
整備するのは大変そう」

04 もらって終わり？

協働・実装・継続が
続くのか、という不安

「立派な課題」でなくていい

思い込み

市民に出して大丈夫な、
きちんと整理された“立派な課題”
でないと出せない——



COGの実際

課題は2種類でOK。

「問題を解決したい」だけでなく
「今をもっと良くしたい」型でもよい

粒度も数も自由。まず1つでいい。

求められるのは、市民目線の“困りごと”。
完璧な整理は要りません。

庁内をまとめてから、ではない

思い込み

複数部署をまとめ、上司や首長の理解を得てからでないと動けない。
前例もない――



乗り越え方

担当課ひとつ・課題ひとつで小さく始める。

庁内へは“別の言葉”で説明する：

人材育成 / 関係人口 / 若い世代との接点

一人で抱えないこと。締切8/31まで、事務局・エバンジェリストに相談を。

オープンデータの整備は不要

思い込み

応募するには、まず
オープンデータを整備しないと
いけないのでは――



COGの実際

コンピュータ判読用の
“オープンデータ形式”でなくてよい。

公開済みの情報・資料・URLを
示すだけで応募できる。

“今あるもの”から始められます。

「もらって終わり」にならない

思い込み

アイデアをもらって終わり。
実装も継続も自治体が
背負うことになるのでは――



乗り越え方

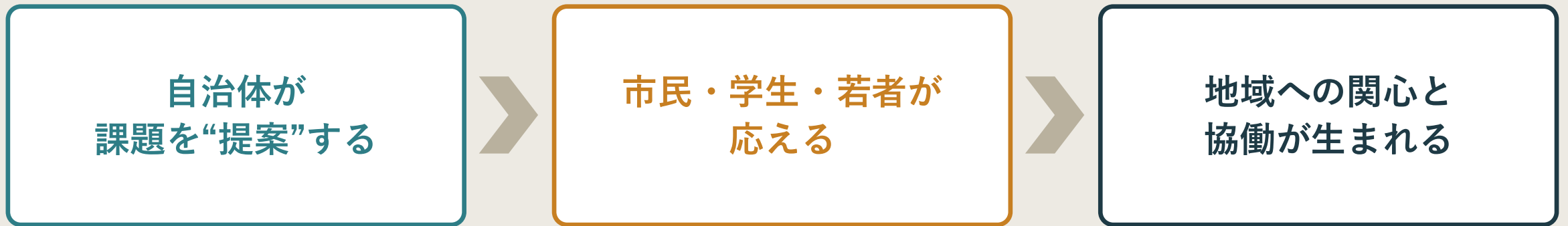
“下請け発注”でなく「協働」。
まずは問い合わせ対応から始められる。

小さな第一歩を一緒に踏む設計
(STEP3で改善アドバイス・伴走あり)
。

先輩に学べる：真鶴・世田谷・横浜・三
条。

※今年は連携状況も評価対象に。

ためらいの正体は「完璧主義」と「一人で抱えること」



自治体は、課題を“受け止める側”から“投げかける側”に回れます。
その問いかけが、学校・市民・若い世代にとって
「地域に関わる最初のきっかけ」になります。

まずは、1つの課題から。

1 課題は1つでいい

完璧でなくていい。
“困りごと”でOK

2 情報を添えるだけ

公開済みの資料・
URLを示すだけ

3 迷ったら相談を

事務局や
エバンジェリストへ

STEP1 自治体の課題募集 受付中 — 締切 2026年8月31日

COGは「永遠のベータ版」。小さく始めて、市民と一緒に育てていく。